

2016年度『アメリカ政治外交史』参考文献(東京大学法学部)

I. 教科書

- 1 斎藤眞著 古矢旬著 『アメリカ政治外交史 第2版』(東大出版会 2012年)
- 2 斎藤眞編、久保文明編 『アメリカ政治外交史教材—英文資料選 第2版』(東大出版会 2008年)

II. 年表

- 3 高坂・佐古・安部 『戦後日米関係年表』(PHP研究所 1995年)

III. 研究入門

- 4 阿部・五十嵐編 『アメリカ研究案内』(東大出版会 1998年)
- 5 五十嵐・油井 『アメリカ研究入門 第3版』(東京大学出版会 2003年)
- 6 古矢・遠藤編 『アメリカ学入門』(南雲堂 2004年)
- 7 阿部斉・加藤普章・久保文明 『北アメリカ 第二版』(国際情勢ベーシックシリーズ8)(自由国民社 2005年)
- 8 有賀・紀平・油井編『アメリカ史研究入門』(山川出版社、2009年)
- 9 仲本 和彦 『研究者のためのアメリカ国立公文書館徹底ガイド』(凱風社、2008)

IV. 史料集・文庫

- 10 アメリカ学会編 『原典アメリカ史』全9巻・別巻(岩波書店 1950-2006年)
- 11 斎藤他編 『アメリカ古典文庫』全23巻(研究社 1974-82年)
- 12 斎藤他編 『アメリカを知る事典』(平凡社 1986年)
- 13 大下・有賀・志邨・平野編 『史料が語るアメリカ 1584-1988』(有斐閣 1989年)
- 14 カーバー・ドゥハート編 『ウィメンズアメリカ』(ドメス出版 2000年)
- 15 有賀夏紀他編『史料で読むアメリカ文化史』全5巻(東京大学出版会、2005年)
- 16 荒・岡田・亀井・久保編 『アメリカを知る事典 新版』(平凡社 2012年)

V. 通史・シリーズ

- 17 紀平英作編著 『アメリカ史』(山川出版社 1999年)
- 18 上杉・巽編著『アメリカの文明と自画像』(ミネルヴァ書房、2006年)
- 19 古矢・山田編著『権力と暴力』(ミネルヴァ書房、2007年)
- 20 秋元・小塩編著『豊かさと環境』(ミネルヴァ書房、2006年)
- 21 久保・有賀編著『個人と国家のあいだく家族・団体・運動』(ミネルヴァ書房、2007年)
- 22 紀平・油井編著『グローバリゼーションと帝国』(ミネルヴァ書房、2006年)
- 23 斎藤眞 『アメリカ政治外交史』(東大出版会 1975年)
- 24 斎藤眞 『アメリカとは何か』(平凡社 1995年)
- 25 有賀貞 『アメリカ政治史』(福村出版 1985年)
- 26 有賀貞 『アメリカ史概論』(東大出版会 1987年)
- 27 R・ホーフスタッター 『アメリカの政治的伝統』上・下(岩波書店 1960年)
- 28 R・ホーフスタッター 『アメリカ現代史』(みず書房 1967年)
- 29 B・J・バーンスタイン 『ニューレフトのアメリカ史像』(東大出版会 1972年)
- 30 A・M・シュレシンジャー 『アメリカ史のサイクル』I・II (パーソナルメディア 1988年)
- 31 R・ナッシュ 『人物アメリカ史』上・下(新潮選書 1989年)
- 32 野村達朗編 『アメリカ合衆国の歴史』(ミネルヴァ書房 1998年)
- 33 岡田泰男 『アメリカ経済史』(慶應義塾大学出版会 2000年)
- 34 M・B・ノートン他 『アメリカの歴史』全6巻(三省堂 1996年)
- 35 V・N・パリーロ 『多様性の国アメリカー変化するモザイク』(明石書店 1997年)
- 36 石井修 『国際政治史としての20世紀』(有信堂 2000年)
- 37 P・ジョンソン 『アメリカ人の歴史』全3巻(共同通信社 2001年、2002年)
- 38 油井・有賀編 『アメリカの歴史—テーマで読む多文化社会の夢と現実』(有斐閣アルマ 2002年)
- 39 佐々木卓也編 『戦後アメリカ外交史』(有斐閣、新版 2009年)

- 40 有賀・大下・志邨・平野編 『アメリカ史』1・2(山川出版社 1993-4年)
- 41 有賀夏紀 『アメリカの二十世紀』上・下(中公新書 2002年)
- 42 渋谷 博史 『20世紀アメリカ財政史』1・2・3 (東京大学出版会 2005年)
- 43 H・ジン『民衆のアメリカ史』上・下(明石書店、2005年)
- 44 エリック・フォーナー『アメリカ自由の物語—植民地時代から現代まで—上・下』(岩波書店 2008年)
- 45 常松・肥後本・中野編『アメリカ史のフロンティア—アメリカ合衆国の形成と政治文化』(昭和堂, 2010年)
- 46 肥後本・山澄・小野沢編『アメリカ史のフロンティア II—現代アメリカの政治文化と世界』(昭和堂, 2010年)

Ⅷ. 問題史

<政治史>

- 47 ハミルトン, マディソン, ジェイ 『ザ・フェデラリスト』(福村出版 1991年)(岩波文庫 1999年)
- 48 アレクシス・ド・トクヴィル『アメリカのデモクラシー 第一巻』上・下(岩波書店、2005年)
- 49 アレクシス・ド・トクヴィル『アメリカのデモクラシー 第二巻』(岩波文庫、2008)
- 50 B・ベイリン 『アメリカ政治の起源』(東大出版会 1974年)
- 51 石川敬史『アメリカ連邦政府の思想的基礎—ジョン・アダムズの中央政府論—』(溪水社 2008年)
- 52 阿部他編 『アメリカ独立革命』(東大出版会 1982年)
- 53 五十嵐武士 『アメリカの建国』(東大出版会 1984年)
- 54 五十嵐・福井 『アメリカとフランスの革命』(世界の歴史21)(中央公論社 1998年)
- 55 宇野重規『トクヴィル—平等と不平等の理論家』(講談社メチエ、2007)
- 56 有賀貞 『アメリカ革命』(東大出版会 1988年)
- 57 斎藤真 『アメリカ革命史研究』(東大出版会 1992年)
- 58 日本政治学会年報(1990) 『十八世紀の革命と近代国家の形成』(岩波書店 1991年)
- 59 阿部斉 『民主主義と公共の概念』(勁草書房 1966年)
- 60 本間長世 『共和国アメリカの誕生—ワシントンと建国の理念』(NTT出版 2006年)
- 61 松本重治編『フランクリン、ジェファソン、マディソン他、トクヴィル』(中公世界の名著40、1980)
- 62 ロン・チャーナウ 『アレグザンダー・ハミルトン伝』(日経BP、2005年)
- 63 明石紀雄 『トマス・ジェファソンと「自由の帝国」の理念』(ミネルヴァ書房 1992年)
- 64 明石紀雄 『モンティチェロのジェファソン—アメリカ建国の父祖の内面史』(ミネルヴァ書房 2003年)
- 65 中野勝郎 『アメリカ連邦体制の確立』(東大出版会 1993年)
- 66 S・ウィレンツ 『民衆支配の讃歌』上・下(木鐸社 2001年)
- 67 清水忠重 『アメリカの黒人奴隷制論』(木鐸社 2001年)
- 68 山岸義雄 『アメリカ膨張主義の展開』(勁草書房 1995年)
- 69 紀平・亀井『アメリカ合衆国の膨張』(世界の歴史23)(中央公論社 1998年)
- 70 田中きく代『南北戦争期の政治文化と移民』(明石書店 2000年)
- 71 G・ウィルズ 『リンカーンの三分間』(共同通信社 1995年)
- 72 長田豊臣 『南北戦争と国家』(東大出版会 1992年)
- 73 辻内鏡人 『アメリカの奴隷制と自由主義』(東大出版会 1997年)
- 74 R. P. シャーキー 『貨幣、階級および政党—南北戦争=再建の経済的研究』(多賀出版 1988年)
- 75 岡山裕 『アメリカ二大政党制の確立—再建期における戦後体制の形成と共和党』(東大出版会 2005年)
- 76 山口房司 『多分節国家アメリカの法と社会』(ミネルヴァ書房 1999年)
- 77 R・A・ピリントン 『フロンティアの遺産』(研究社 1971年)
- 78 H・G・ガットマン 『金ピカ時代のアメリカ』(平凡社 1986年)
- 79 J・C・ペリー 『西へ!』(PHP研究所 1998年)
- 80 阿部他編 『世紀転換期のアメリカ』(東大出版会 1982年)
- 81 F・L・アレン『オンリー・イエスタディ』(筑摩書房、1993年)
- 82 F・L・アレン『シンス・イエスタディ』(筑摩書房、1998年)
- 83 今津他編 『市民的自由の探求』(世界思想社 1985年)
- 84 樋口映美 『アメリカ黒人と北部産業』(彩流社 1997年)
- 85 平田美和子 『アメリカ都市政治の展開』(勁草書房 2001年)
- 86 W・ルクテンバーグ 『ローズヴェルト』(紀国屋書店 1968年)

- 87 A・M・シュレジンガー 『ローズヴェルトの時代』全3巻(論争社 1961-2年、ペリカン社 1966年)
- 88 久保文明 『ニューディールとアメリカ民主政』(東大出版会 1989年)
- 89 秋元英一 『ニューディールとアメリカ資本主義』(東大出版会 1989年)
- 90 紀平英作 『ニューディール政治秩序の形成過程の研究』(京大学術出版 1993年)
- 91 西川賢『ニューディール期民主党の変容—政党組織・集票構造・利益誘導—』(慶大出版会 2008年)
- 92 中島醜『アメリカ国家像の再構成—ニューディール・リベラル派とロバート・ワグナーの国家構想』(勁草書房、2014年)
- 93 本間他編 『現代アメリカの出現』(東大出版会 1988年)
- 94 L・ハーツ 『アメリカ自由主義の伝統』(有信堂 1963年)
- 95 R・ホーフスタッター 『アメリカの反知性主義』(みすず書房 2003年)
- 96 シェルドン・S・ウォリン著、千葉眞、齋藤眞その他翻訳『アメリカ憲法の呪縛』(みすず書房、2006)
- 97 ラインホルド・ニーバー 『アメリカ史のアイロニー』(聖学院大学出版会、2008)
- 98 中谷義和 『アメリカ政治学史序説』(ミネルヴァ書房 2005年)
- 99 エドウィン・S・ガウスタッド著、大西直樹翻訳『アメリカの政教分離』(みすず書房、2007)
- 100 山本周二 『ピューリタン神権政治』(九州大学出版会 2002年)
- 101 森孝一編 『アメリカと宗教』(日本国際問題研究所 1997年)
- 102 森孝一 『宗教から読む「アメリカ」』(講談社選書メチエ 1996年)
- 103 小川・石垣編 『アメリカにおける地域的特性と全国的統一』(木鐸社 1983年)
- 104 佐藤誠三郎編 『自由と統合』(日本経済新聞社 1985年)
- 105 古矢旬 『アメリカ—過去と現在の間』(岩波新書 2004年)
- 106 阿川尚之 『憲法で読むアメリカ史』上下(PHP新書 2005年)
- 107 C・A・ピアード 『アメリカ共和国』(みすず書房 1986年)
- 108 本間長世『アメリカ大統領の挑戦』(エヌティティ出版、2008)
- 109 ジョン・F・ケネディ『勇気ある人々』(英治出版、2008)
- 110 前川玲子 『アメリカ知識人とラディカル・ビジョンの崩壊』(京大学術出版会 2003年)
- 111 マイケル・ウォルツァー『アメリカ人であるとはどういうことか』(ミネルヴァ書房、2006年)
- 112 永井務 『アメリカ知識人論』(創風社 2006年)
- 113 R・H・ロービア『マッカーシズム』(岩波書店1984年)
- 114 賀川真理『サンフランシスコにおける日本学童隔離問題』(論創社、1999年)
- 115 平体由美『連邦制と社会改革—20世紀初頭アメリカ合衆国の児童労働規制』(世界思想社2007年)
- 116 R・ケリー 『アメリカ政治文化史』(木鐸社 1987年)
- 117 古矢旬 『アメリカニズム—普遍国家のナショナリズム』(東京大学出版会 2002年)
- 118 H・フリール 『『ニューヨークタイムズ』神話』(三交社 2005年)
- 119 中谷義和 『草創期のアメリカ政治学』(ミネルヴァ書房、2002年)
- 120 紀平英作編著 『アメリカ民主主義の過去と現在』(ミネルヴァ書房、2008年)
- 121 榎田久代『初期アメリカの連邦構造—内陸開発政策と州主権』(北海道大学出版会、2009年)
- 122 イアン・ティレル著、藤本茂生他訳『トランスナショナル・ネーション アメリカ合衆国の歴史』(明石書店、2010年)
- 123 仲晃『アメリカ大統領が死んだ日—一九四五年春、ローズベルト』(岩波現代文庫、2010年)
- 124 ゴードン・ウッド『ベンジャミン・フランクリン、アメリカ人になる』(慶應義塾大学出版会、2010年)
- 125 末次俊之著『リンドン・B・ジョンソン大統領と「偉大な社会」計画』(専修大学出版局 2012年)
- 126 ドリス・カーズ・グッドウィン著、砂村榮利子他訳『フランクリン・ローズヴェルト(上)日米開戦への道、(下)激戦の果てに』(中央公論新社、2014年)
- 127 ティム・ワイナー、藤田博司訳『CIA秘録上・下』(文藝春秋、2011)
- 128 ティム・ワイナー、山田侑平訳『FBI秘録上・下』(文藝春秋、2014)
- 129 中野耕太郎著『20世紀アメリカ国民秩序の形成』(名古屋大学出版会、2015年)

<社会・経済史>

- 130 和田光弘 『紫煙と帝国—アメリカ南部タバコ植民地の社会と経済』(名古屋大学出版会 2000年)
- 131 C・V・ウッドワード 『アメリカ人種差別の歴史』(福村出版 1977年)
- 132 B・クオールズ 『アメリカ黒人の歴史』(明石書店 1994年)
- 133 Th・L・ウェッバー 『奴隷文化の誕生』(新評論 1988年)
- 134 N・グレイザー、P・D・モイニハン 『人種のるつぼを越えて』(南雲堂 1986年)
- 135 J・ハイアム 『自由の女神のもとへ』(平凡社 1994年)

- 136 樋口映美, 中條献編 『歴史のなかの「アメリカ」—国民化をめぐる語りと創造』(彩流社 2006年)
- 137 五十嵐武士編 『アメリカの多民族体制』(東大出版会 2000年)
- 138 川島正樹 『アメリカニズムと人種』(名古屋大学出版会 2005)
- 139 ジョン・ホープ・フランクリン 『20世紀のアメリカ黒人指導者』(明石書店 2005)
- 140 エリック・ウィリアムズ 『資本主義と奴隷制—経済史から見た黒人奴隷制の発生と崩壊』(明石書店 2004)
- 141 アール・オファリ・ハッチンソン 『ゆがんだ黒人イメージとアメリカ社会—ブラック・メール・イメージの形成と展開』(明石書店 1998)
- 142 ウィリアム・ジュリアス・ウィルソン 『アメリカ大都市の貧困と差別—仕事がなくなるとき』(明石書店 1999)
- 143 ラニ・グイニア 『多数派の専制—黒人のエンパワーメントと小選挙区制』(新評論 1997)
- 144 竹中興慈 『シカゴ黒人ゲト—成立の社会史』(明石書店 1995)
- 145 ピート・ダニエル著, 前田絢子訳 『失われた革命—1950年代のアメリカ南部』(青土社 2005年)
- 146 有賀夏紀 『アメリカ・フェミニズムの社会史』(勁草書房 1988年)
- 147 R・タカキ 『多文化社会アメリカの歴史』(明石書店 1995年)
- 148 R. タカキ 『もう一つのアメリカン・ドリーム』(岩波書店 1996年)
- 149 岡本勝 『アメリカ禁酒運動の軌跡』(ミネルヴァ書房 1994年)
- 150 W・リクト 『工業化とアメリカ社会』(ミネルヴァ書房 2000年)
- 151 綾部恒雄 『クラブが創った国アメリカ』(山川出版社 2005年)
- 152 S・M・エヴァンズ 『アメリカの女性の歴史—自由のために生まれて』(明石書店 1997年)
- 153 M・L・キング 『私には夢がある—M・L・キング説教・講演集』(新教出版社 2003年)
- 154 油井・遠藤編 『浸透するアメリカ、拒まれるアメリカ—世界史の中のアメリカニゼーション』(東大出版会2003年)
- 155 川島浩平 『都市コミュニティと階級・エスニシティ—ボストン・バックベイ地区の形成と変容、1850-1940』(武蔵大学研究叢書 2002年)
- 156 S・M・リップセット 『アメリカ例外論—日欧とも異質な超大国の論理とは』(明石書店 1999年)
- 157 中條献 『歴史のなかの人種—アメリカが創り出す差異と多様性』(北樹出版 2004年)
- 158 大谷康夫 『アメリカの黒人と公民権法の歴史』(明石書店 2002年)
- 159 ジェームズ・W・ローウェン 『アメリカの歴史教科書問題—先生が教えた嘘』(明石書店 2003年)
- 160 ジェームズ・H・コーン 『夢か悪夢か・キング牧師とマルコムX』(日本基督教団出版局 1996年)
- 161 長沼秀世 『アメリカの社会運動—CIO史の研究』(彩流社 2004年)
- 162 大類久恵 『アメリカの中のイスラーム』(子供の未来社 2006年)
- 163 S・M・エヴァンズ 『アメリカの女性の歴史—自由のために生まれて』(明石書店 2005)
- 164 T・J・スグルー『アメリカの都市危機と「アンダークラス」—自動車都市デトロイトの戦後史』(明石書店、2002年)
- 165 D・R・ローディガー『アメリカにおける白人意識の構築—労働者階級の形成と人種』(明石書店、2006年)
- 166 松本悠子『創られるアメリカ国民と「他者」—「アメリカ化」時代のシティズンシップ』(東大出版会 2007年)
- 167 増井志津代『植民地時代アメリカの宗教思想—ピューリタニズムと大西洋世界』(上智大学、2006)
- 168 荒このみ『マルコムX 人権への闘い』(岩波新書、2009年)
- 169 ジェームズ・T・パターンソン著, 榎岡宏成訳『ブラウン判決の遺産 アメリカ公民権運動と教育制度の歴史』(慶應義塾大学出版会、2010年)
- 170 有賀夏紀・小松山ルイ 編著『アメリカ・ジェンダー史研究入門』(青木書店、2010年)
- 171 上杉忍 『公民権運動への道』(岩波書店 1998年)
- 172 園田節子『南北アメリカ華民と近代中国 19世紀トランスナショナル・マイグレーション』(東京大学出版会、2009)
- 173 貴堂嘉之著 『アメリカ合衆国と中国人移民—歴史のなかの「移民国家」アメリカ』(名大出版会 2012年)
- 174 中島和子著 『黒人の政治参加と第三世紀アメリカの出発[新版]』(みすず書房 2011年)
- 183 油井大 三郎編『越境する一九六〇年代: 米国・日本・西欧の国際比較』(彩流社、2012年)
- 176 森本 あんり『アメリカ的理念の身体—寛容と良心・政教分離・信教の自由をめぐる歴史的实验の軌跡』(創文社 2012年)
- 177 上杉忍『アメリカ黒人の歴史—奴隷貿易からオバマ大統領まで』(中央公論新社、2013年)
- 178 橋川健竜『農村型事業とアメリカ資本主義の胎動 共和国初期の経済ネットワークと都市近郊』(東京大学出版会、2013年)

<外交史>

- 179 有賀他編 『講座国際政治2—外交政策』(東大出版会 1989年)
- 180 G・F・ケナン 『アメリカ外交50年』(岩波書店 1986年)
- 181 斎藤真 『アメリカ外交の論理と現実』(東大出版会 1962年)
- 182 W・A・ウィリアムズ 『アメリカ外交の悲劇』(お茶の水書房 1986年)
- 183 清水知久 『アメリカ帝国』(亜紀書房 1968年)

- 184 中嶋啓雄 『モンロー・ドクトリンとアメリカ外交の基盤』(ミネルヴァ書房 2002年)
- 185 H・キッシンジャー 『外交』上・下(日本経済新聞社 1996年)
- 186 I・ウォーラー・ステイン 『ポスト・アメリカー世界システムにおける地政学と地政文化』(藤原書店 1991年)
- 187 W・ラフィーバー 『アメリカの時代』(芦書房 1992年)
- 188 T・J・マコーミック 『パクス・アメリカーナの五十年』(東京創元社 1992年)
- 189 R・ダレック 『20世紀のアメリカ外交』(多賀書房 1991年)
- 190 高原秀介 『ウィルソン外交と日本』(創文社、2006年)
- 191 長田彰文 『セオドア・ルーズベルトと韓国』(未来社 1992年)
- 192 長田彰文 『日本の朝鮮統治と国際関係—朝鮮独立運動とアメリカ1910-1922』(平凡社 2005年)
- 193 J・M・バーンズ 『ローズヴェルトと第二次大戦』全2巻(時事通信社 1972年)
- 194 産経新聞社 『ルーズベルト秘録』(扶桑社 2001年)
- 195 上杉忍 『二次大戦下のアメリカ民主主義』(講談社 2000年)
- 196 R・ローズ 『原子爆弾の誕生』全2巻(啓学出版 1993年)
- 197 荒井信一 『原爆投下への道』(東大出版会 1985年)
- 198 M・シャーウィン 『破滅への道』(TBSブリタニカ 1978年)
- 199 C・ハル 『ハル回顧録』(中央公論社 2001年)
- 200 油井大三郎 『戦後世界秩序の形成』(東大出版会 1985年)
- 201 紀平英作 『パクス・アメリカーナへの道』(山川出版社 1996年)
- 202 袁克勤 『アメリカと日華講和—米・日・台関係の構図』(柏書房 2001年)
- 203 泉淳 『アイゼンハワー政権の中東政策』(国際書院 2001年)
- 204 鈴木健人 『「封じ込め」構想と米国世界戦略—ジョージ・F・ケナンの思想と行動1931年～1952年』(溪水社、2003年)
- 205 西岡達裕 『アメリカ外交と核軍備競争の起源』(彩流社 1999年)
- 206 油井・古田 『第二次世界大戦から米ソ対立へ』(世界の歴史28)(中央公論社 1998年)
- 207 L・ハレー 『歴史としての冷戦』(サイマル出版 1981年)
- 208 佐々木卓也 『封じ込めの形成と変容』(三嶺書房 1993年)
- 209 西崎文子 『アメリカの冷戦政策と国連』(東大出版会 1992年)
- 210 宮里政玄 『アメリカの対外政策決定過程』(三一書房 1981年)
- 211 菅英輝 『米ソ冷戦とアメリカのアジア政策』(ミネルヴァ書房 1992年)
- 212 中野聡 『フィリピン独立問題史』(龍溪書舎 1997年)
- 213 B・カミングス 『朝鮮戦争の起源』全2巻(シアレヒム社 1989-91年)
- 214 小此木政夫 『朝鮮戦争』(中央公論社 1986年)
- 215 李鍾元 『東アジア冷戦と韓米日関係』(東大出版会 1996年)
- 216 袁克勤 『アメリカと日華講和』(柏書房 2001年)
- 217 松岡完 『ダレス外交とインドシナ』(同文館 1989年)
- 218 G・コルコ 『第三世界との対決』(筑摩書房 1992年)
- 219 紀平英作編 『帝国と市民—苦悩するアメリカ民主政』(山川出版社 2003年)
- 220 『国際政治』第70号(冷戦期アメリカ外交の再検討)(有斐閣 1982年)
- 221 『国際政治』第105号(一九五〇年代の国際政治)(有斐閣 1994年)
- 222 加藤洋子 『アメリカの世界戦略とココム』(有信堂高文社 1992年)
- 223 T・ソレンセン 『ケネディの遺産』(サイマル出版 1970年)
- 224 A・M・シュレジンガー 『ケネディ』全2巻(河出書房新社 1966年)
- 225 T・ギトリン 『60年代アメリカ』(彩流社 1993年)
- 226 D・ハルバースタム 『ベスト&ブライテスト』全3巻(サイマル出版 1976年)
- 227 G・C・ヘリング 『アメリカの最も長い戦争』上・下(講談社 1986年)
- 228 松岡完 『1961 ケネディの戦争』(朝日新聞社 1999年)
- 229 R・ケネディ 『13日間—キューバ危機回顧録』(中公文庫 2001年)
- 230 毛里和子・毛里興三郎 『ニクソン訪中機密会談録』(名古屋大学出版会 2001年)
- 231 ボブ・ウッドワード、カール・バーンスタイン 『大統領の陰謀—ニクソンを追いつめた300日』(文春文庫、2005年)
- 232 長尾龍一 『オーウェン・ラティモア伝』(信山社叢書 2000年)
- 233 宇佐美滋 『米中国交樹立交渉の研究』(国際書院 1996年)

- 234 井尻秀憲 『現代アメリカ知識人と中国』(ミネルヴァ書房 1992年)
- 235 入江昭 『増補 米中関係のイメージ』(平凡社 2002年)
- 236 有賀貞編 『アメリカ外交と人権』(日本国際問題研究所 1992年)
- 237 村田晃嗣 『大統領の挫折』(有斐閣 1998年)
- 238 J・L・ギャディス 『ロング・ピース— 冷戦史の証言「核・緊張・平和」』(芦書房 2002年)
- 239 J・L・ギャディス 『歴史としての冷戦—力と平和の追求』(慶應義塾大学出版会 2004年)
- 240 C・カプチャン 『アメリカの時代の終わり』上・下(日本放送出版協会 2003年)
- 241 C・ジョンソン 『アメリカ帝国の悲劇』(文芸春秋 2004年)
- 242 R・ニュースタット、E・メイ 『ハーバード流歴史活用法—政策決定の成功と失敗』(三嶺書房 1996年)
- 243 G・J・アイケンベリー 『アフター・ヴィクトリー—戦後構築の論理と行動』(NTT出版 2004年)
- 244 O・ザンズ 『アメリカの世紀 それはいかにして創られたか?』(刀水書房 2005年)
- 245 M・J・ホーガン 『アメリカ大国への道—学説史から見た対外政策』(彩流社 2005年)
- 246 A・メイ 『歴史の教訓—アメリカ外交はどう作られたか』(岩波現代文庫 2004年)
- 247 ドン・オーバードファー『マイク・マンズフィールド-米国の良心を守った政治家の生涯』上・下(共同通信社2006年)
- 248 ロバート・パスター『アメリカの中南米政策』(明石書店、2008)
- 249 中野聡 『歴史経験としてのアメリカ帝国—米比関係史の群像』(岩波書店、2007)
- 250 油井大三郎『好戦の共和国アメリカ—戦争の記憶をたどる』(岩波書店、2008)
- 251 中谷義和『グローバル化とアメリカのヘゲモニー』(法律文化社、2008年)
- 252 佐々木卓也 『アイゼンハワー政権の封じ込め政策—ソ連の脅威、ミサイル・ギャップ論争と東西交流』(有斐閣、2008)
- 253 森聡『ヴェトナム戦争と同盟外交—英仏の外交とアメリカの選択1964-1968年』(東京大学出版会、2009年)
- 254 イド・オレン著、中谷義和訳『アメリカ政治学と国際関係 論敵たちとの対応の軌跡』(御茶の水書房、2010年)
- 255 菅英輝編著『冷戦史の再検討 変容する秩序と冷戦の終焉』(法政大学出版局、2010年)
- 256 油井大三郎、古田元夫『世界の歴史 28 第二次世界大戦から米ソ対立へ』(中公文庫、2010年)
- 257 佐々木卓也 編著『ハンドブック アメリカ外交史』(ミネルヴァ書房 2011年)
- 258 ヘンリー・A. キッシンジャー『キッシンジャー回想録 中国』(岩波書店 2012年)
- 259 ジョン・ルカーチ『評伝 ジョージ・ケナン』(法政大学出版局、2011年)
- 260 デイビッド・ロックフェラー『ロックフェラー回顧録』(新潮社、2007年)
- 261 ジェフリー・サククス著、櫻井佑子訳『世界を動かす—ケネディが求めた平和への道』(早川書房、2014年)
- 262 フレデリック・ケンブ著、宮下嶺夫訳『ベルリン危機1961—ケネディとフルシチョフの冷戦』上・下(白水社、2014年)
- 263 藤本博著『ヴェトナム戦争研究 「アメリカの戦争」の実相と戦争の克服』(南山大学学術叢書、2014年)
- 264 佐橋亮『共存の模索: アメリカと「二つの中国」の冷戦史』(勁草書房、2015)
- 265 菅英輝『冷戦と「アメリカの世紀」——アジアにおける「非公式帝国」の秩序形成』(岩波書店、2016)
- 266 ドン・マントン、デイビッド・A・ウェルチ『キューバ危機—ミラー・イメージングの罫』(中央公論新社、2015年)
- 267 アンドリュー・クレピネヴィッチ、パリー・ワッツ『帝国の参謀—アンドリュー・マーシャルと米国の軍事戦略』(日経BP社、2016年)

Ⅷ. 日米関係

- 268 細谷・本間編 『日米関係史』[新版](有斐閣選書 1991年)
- 269 細谷千博編 『日米関係通史』(東大出版会 1995年)
- 270 細谷・斎藤編 『ワシントン体制と日米関係』(東大出版会 1978年)
- 271 簗原俊洋 『排日移民法と日米関係:「埴原書簡」の真相とその「重大なる結果」』(岩波書店 2002年)
- 272 塩崎智 『アメリカ知日派の起源』(平凡社 2001年)
- 273 麻田貞雄 『両大戦間の日米関係』(東大出版会 1993年)
- 274 E・S・ミラー 『オレンジ計画』(新潮社 1994年)
- 275 細谷他編 『日米関係史』全4巻(東大出版会 1971-72年)
- 276 J・G・アトリー 『アメリカの対日戦略』(朝日出版社 1989年)
- 277 入江昭 『日米戦争』(中央公論社 1978年)
- 278 細谷他編 『太平洋戦争』(東大出版会 1993年)
- 279 入江昭 『太平洋戦争の起源』(東大出版会 1991年)
- 280 細谷他編 『太平洋戦争の終結』(柏書房 1997年)
- 281 島田法子 『日系アメリカ人の太平洋戦争』(リーベル出版 1995年)

- 282 五百旗頭真 『米国の日本占領政策』上・下(中央公論社 1985年)
- 283 五百旗頭真 『日米戦争と戦後日本』(講談社学術文庫 2005年)
- 284 竹前栄治 『占領戦後史』(岩波書店 1992年)
- 285 R・フィン 『マッカーサーと吉田茂』上・下(角川文庫 1993年)
- 286 五十嵐武士 『戦後日米関係の形成』(講談社学術文庫 1995年)
- 287 細谷千博 『サンフランシスコ講和への道』(中央公論社 1984年)
- 288 渡辺・宮里編 『サンフランシスコ講和』(東大出版会 1986年)
- 289 明田川融 『日米行政協定の政治史』(法政大学出版局 1999年)
- 290 坂元一哉 『日米同盟の絆』(有斐閣 2000年)
- 291 植村秀樹 『再軍備と五五年体制』(木鐸社 1995年)
- 292 樋渡由美 『戦後政治と日米関係』(東大出版会 1990年)
- 293 原彬久 『戦後日本と国際関係』(中央公論社 1988年)
- 294 原彬久 『日米関係の構図』(NHKブックス 1991年)
- 295 細谷他編 『国際環境の変化と日米関係』(東大出版会 1987年)
- 296 石井修 『冷戦と日米関係』(ジャパントイムズ 1987年)
- 297 若泉敬 『他策ナカリシヲ信ゼムト欲ス』(文藝春秋 1994年)
- 298 河野康子 『沖縄返還をめぐる政治と外交』(東大出版会 1994年)
- 299 我部政明 『沖縄返還は何だったのか』(NHKブックス 2000年)
- 300 I・M・デスラー他 『日米繊維紛争』(日本経済新聞社 1982年)
- 301 I・M・デスラー他編 『日米経済紛争の解明』(日本経済新聞社 1983年)
- 302 草野厚 『日米オレンジ交渉』(日本経済新聞社 1983年)
- 303 野林健 『保護貿易の政治力学』(勁草書房 1987年)
- 304 野林健 『管理貿易の政治経済学』(有斐閣 1996年)
- 305 船橋洋一 『通貨烈烈』(朝日新聞社 1988年)
- 306 C・V・プレストウィッツ 『日米逆転』(ダイヤモンド社 1988年)
- 307 佐藤英夫 『日米経済摩擦』(平凡社 1991年)
- 308 宮里・臼井編 『新国際政治経済秩序と日米関係』(同文館 1992年)
- 309 G・フクシマ 『日米経済摩擦の政治学』(朝日新聞社 1992年)
- 310 中村他編 『戦後日本』全6巻(岩波書店 1995年)
- 311 油井大三郎 『日米戦争観の相剋』(岩波書店 1995年)
- 312 谷口将紀 『日本の対米貿易交渉』(東大出版会 1997年)
- 313 猪口孝編 『冷戦後の日米関係』(NTT出版 1997年)
- 314 五十嵐武士 『日米関係と東アジア』(東大出版会 1999年)
- 315 船橋洋一 『同盟漂流』(岩波書店 1997年)
- 316 グリーン他編 『日米同盟』(勁草書房 1999年)
- 317 入江昭ほか 『戦後日米関係史』(講談社インターナショナル 2001年)
- 318 川上高司 『米国の対日政策』(同文館出版 2001年)
- 319 秋山昌廣 『日米の戦略対話が始まった: 安保再定義の舞台裏』(亜紀書房 2002年)
- 320 石井・我部 『アメリカ合衆国対日文書集成10(日米外交防衛問題)』(柏書房 2002年)
- 321 入江昭 『日米関係五十年: 変わるアメリカ・変わらぬアメリカ』(岩波書店 1991年)
- 322 大矢根聡 『日米韓半導体摩擦—通商交渉の政治経済学』(有信堂高文社 2002年)
- 323 R・エルドリッチ 『沖縄問題の起源』(名古屋大学出版会 2003年)
- 324 油井大三郎 『未完の占領改革—アメリカ知識人と捨てられた日本民主化構想』(東京大学出版会 1989年)
- 325 J・ダワー 『敗北を抱きしめて—増補版』上・下(岩波書店 2004年)
- 326 H・ボートン 『戦後日本の設計者—ボートン回想録』(朝日新聞社 1998年)
- 327 H・バイアス 『敵国日本—太平洋戦争時、アメリカは日本をどう見たか?』(刀水歴史全書 2004年)
- 328 細谷千博 『日本とアメリカ—パートナーシップの50年』(ジャパントイムズ 2001年)
- 329 M・シャラー 『「日米関係」とは何だったのか—占領期から冷戦終結後まで』(草思社 2004年)
- 330 R・S・マクナマラ 『マクナマラ回顧録』(共同通信社 1997年)
- 331 ロバート・エルドリッチ 『奄美返還と日米関係—戦後アメリカの奄美・沖縄占領とアジア戦略』(南方新社2003年)

- 332 藤本・島川編著『アメリカの戦争と在日米軍—日米安保体制の歴史』(社会評論社 2003年)
- 333 佐藤学 『米国議会の対日立法活動—1980～1990年代対日政策の検証』(コモンズ 2004年)
- 334 ヘレン・ミアーズ『アメリカの鏡・日本』(角川書店、2005年)
- 335 石津朋之、W・マーレー編 『日米戦略思想史—日米関係の新しい視点』(彩流社 2005年)
- 336 山本正編著『戦後日米関係とフィランソロピー 民間財団が果たした役割、1945～1975年』(ミネルヴァ書房、2008)
- 337 信田智人『日米同盟というリアリズム』(千倉書房、2007)
- 338 エミリー・ローゼンバーグ編『アメリカは忘れない—記憶のなかのパールハーバー』(法政大学出版局、2007)
- 339 五百旗頭真編『日米関係史』(有斐閣、2008)
- 340 村川庸子『境界線上の市民権—日米戦争と日系アメリカ人』(御茶の水書房、2007年)
- 341 増田 弘 『マッカーサー—フィリピン統治から日本占領へ』(中央公論新社、2009)
- 342 ケント・E・カルダー 『日米同盟の静かなる危機』(ウェッジ、2008年)
- 343 土屋由香『親米日本の構築 アメリカの対日情報・教育政策と日本占領』(明石書店、2009年)
- 344 チャールズ・A・ピアード著 『ルーズベルトの責任 [日米戦争はなぜ始まったか]』(藤原書店 2012年)
- 345 竹内俊隆 編著『日米同盟論—歴史・機能・周辺諸国の視点』(ミネルヴァ書房 2011年)
- 346 久保文明編、日本国際問題研究所監修『アメリカにとって同盟とはなにか』(中央公論新社、2013年)
- 347 吉田真吾著『日米同盟の制度化—発展と深化の歴史過程』(名古屋大学出版会、2012年)
- 348 袖井 林二郎『吉田茂=マッカーサー往復書簡集 [1945-1951]』(講談社学術文庫 2012年)
- 349 日米協会編『もう一つの日米交流史 日米協会資料で読む20世紀』(中央公論新社、2012年)
- 350 東 栄一郎『日系アメリカ移民 二つの帝国のはざままで—忘れられた記憶 1868-1945』(明石書店、2014年)
- 351 北村 洋『敗戦とハリウッド—占領下日本の文化再建』(名古屋大学出版会、2014年)
- 352 川上高司『「無極化」時代の日米同盟:アメリカの対中宥和政策は日本の「危機の二〇年」の始まりか』(ミネルヴァ書房、2015)
- 353 吉本秀子『米国の沖縄占領と情報政策:軍国主義の矛盾とカモフラージュ』(春風社、2015)
- 354 藤田文子『アメリカ文化外交と日本—冷戦期の文化と人の交流』(東京大学出版会、2015年)
- 355 簗原俊洋『アメリカの排日運動と日米関係「排日移民法」はなぜ成立したか』(朝日新聞出版、2016)
- 356 東 栄一郎『日系アメリカ移民 二つの帝国のはざままで:忘れられた記憶 1868-1945』(明石書店、2014)

Ⅷ 現代アメリカ政治・外交

<総論>

- 357 久保文明編『アメリカの政治 増補版』(弘文堂、2011年)
- 358 久保文明編『アメリカ政治を支えるもの—政治的インフラストラクチャーの研究』(日本国際問題研究所、2011年)
- 359 久保・砂田・松岡・森脇著『アメリカ政治 新版』(有斐閣、2010年)
- 360 渡辺 靖編『現代アメリカ』(有斐閣、2010年)
- 361 五十嵐・久保編『アメリカ現代政治の構図:デオロギー対立とそのゆくえ』(東京大学出版会、2009年)
- 362 阿部斉・久保文明 『国際社会研究I 現代アメリカの政治』(放送大学教育振興会、2002年)
- 363 久保文明編著『超大国アメリカの素顔』(ウェッジ、2007年)
- 364 久保文明・草野厚・大沢秀介編 『現代アメリカ政治の変容』(勁草書房 1999年)
- 365 砂田一郎 新版『現代アメリカ政治』(芦書房 1999年)
- 366 五十嵐・古矢・松本編 『アメリカの社会と政治』(有斐閣 1995年)
- 367 福田・野村・岩野・堀 『現代アメリカ合衆国』(ミネルヴァ書房 1993年)
- 368 阿部斉 『アメリカ現代政治』第2版(東大出版会 1992年)
- 369 阿部・五十嵐編 『アメリカ現代政治の分析』(東大出版会 1991年)
- 370 Th. ロウイ 『自由主義の終焉』(木鐸社 1985年)
- 371 J・ナイ 『なぜ政府は信頼されないのか』(英治出版 2002年)
- 372 K・フィリップス 『アメリカで「革命」が起きる』(日本経済新聞社 1995年)
- 373 吉原欽一編 『現代アメリカの政治権力構造』(日本評論社 2000年)
- 374 吉原欽一『アメリカ人の政治』(PHP研究所、2008年)
- 375 待鳥聡史『代表と統治のアメリカ政治』(講談社選書メチエ、2009年)
- 376 砂田一郎 『現代アメリカの政治変動』(勁草書房 1994年)
- 377 大串和雄・城山英明編『政策革新の理論』(東京大学出版会、2008年)
- 378 吉野 孝、前嶋 和弘『オバマ政権と過渡期のアメリカ社会—選挙、政党、制度、メディア、対外援助』(東信堂 2012年)

- 379 佐々木卓也 著『冷戦——アメリカの民主主義的生活様式を守る戦い』(有斐閣 2011年)
- 380 西山隆行『アメリカ政治 制度・文化・歴史』(三修社、2014年)
- 381 渡辺靖『アメリカン・デモクラシーの逆説』(岩波新書、2010年)
- 382 渡辺靖『アメリカのジレンマ—実験国家はどこへゆくのか』(NHK出版、2015)
- 383 R・A・ダール『ポリアーキー』(岩波文庫、2014)
- 384 渡部将人『アメリカ政治の壁:利益と理念の狭間で』(岩波書店、2016)
- 385 山岸敬和・西川賢編『ポスト・オバマのアメリカ』(大学教育出版、2016)
- 386 渡辺靖『沈まぬアメリカ 拡散するソフト・パワーとその真価』(新潮社、2015)

<レーガン政権>

- 387 五十嵐武士 『政策革新の政治学』(東大出版会 1992年)
- 388 D・A・ストックマン 『レーガノミックスの崩壊』(サイケイ出版 1987年)
- 389 W・ニスカネン 『レーガノミックス』(日本経済新聞社 1989年)
- 390 渋谷博史 『レーガン財政の研究』(東大出版会 1992年)
- 391 土志田 征一 『レーガノミックス—供給経済学の実験』(中央公論社 1986年)
- 392 K・フィリップス 『富と貧困の政治学—共和党政権はアメリカをどう変えたか』(草思社 1992年)
- 393 ハワード・ベーカー、春原 剛『ハワード・ベーカー 超党派の精神』(日本経済新聞出版社、2009)

<クリントン政権>

- 394 宮里編 『クリントン政権の内政と外交』(同文館 1994年)
- 395 ロバート・ルービン『ルービン回顧録』(日本経済新聞社、2005年)
- 396 B・ウッドワード 『大統領執務室』(文藝春秋 1994年)
- 397 西川賢『ビル・クリントン: 停滞するアメリカをいかに建て直したか』(中公新書、2016)

<G.W.ブッシュ政権>

- 398 ナンシー・スノー『情報戦争—9・11以降のアメリカにおけるプロパガンダ』(岩波書店、2004年)
- 399 パートン・ゲルマン著、加藤祐子訳『策謀家 Cheney 副大統領が創った「ブッシュのアメリカ」』(朝日新聞出版、2010年)
- 400 ジョージ・W・ブッシュ著、伏見 威蕃訳『決断のとき(上)(下)』(日本経済新聞出版社、2011年)
- 401 三浦俊章 『ブッシュのアメリカ』(岩波新書 2003年)
- 402 B・ウッドワード 『ブッシュの戦争』(日本経済新聞社 2003年)
- 403 近藤重克編 『ブッシュ政権の国防政策 JIA研究』(日本国際問題研究所 2002年)
- 404 R・ケーガン 『ネオコンの論理: アメリカ新保守主義の世界戦略』(光文社 2003年)
- 405 B・ウッドワード 『攻撃計画(Plan of Attack)—ブッシュのイラク戦争』(日本経済新聞社 2004年)
- 406 J・マン 『ウルカヌスの群像—ブッシュ政権とイラク戦争』(共同通信社 2004年)
- 407 M・リンド 『アメリカの内戦』(アスコム 2004年)
- 408 ヘンリー・ポールソン著、有賀裕子訳『ポールソン回顧録』(日本経済新聞出版社、2010年)
- 409 ローラ・ブッシュ、村井理子訳『ローラ・ブッシュ自伝: 脚光の舞台裏』(中央公論新社、2015)
- 410 プリースト・デナ、アーキン・ウィリアム『トップ・シークレット・アメリカ: 最高機密に覆われる国家』(草思社、2013)
- 411 コンドリーサ・ライス『ライス回顧録: ホワイトハウス激動の2920日』(集英社、2013年)

<オバマ政権>

- 412 バラク・オバマ、棚橋志行訳『合衆国再生』(楓書店、ダイヤモンド社2008年第3版)
- 413 渡辺将人『オバマのアメリカ—大統領選挙と超大国のゆくえ』(幻冬舎出版、2008年)
- 414 久保文明編著『オバマ大統領を支える高官たち—政権移行と政治任用の研究—』(日本評論社、2009年)
- 415 古矢旬 『ブッシュからオバマへ—アメリカ変革のゆくえ』(岩波書店、2009年)
- 416 吉野孝、前嶋和弘編著『2008年アメリカ大統領選挙—オバマの当選は何を意味するのか—』(東信堂、2009年)
- 417 吉野孝、前嶋和弘編著『オバマ政権はアメリカをどのように変えたのか—支持連合・政策成果・中間選挙』(東信堂、2010)
- 418 渡辺 将人『評伝 バラク・オバマ —「越境」する大統領』(集英社、2009年)
- 419 砂田 一郎『オバマは何を変えるか』(岩波書店、2009年)
- 420 ジョン・ハイルマン他『大統領オバマはこうしてつくられた』(朝日新聞出版、2010)
- 421 久保文明他編『オバマ政治を採点する』(日本評論社、2010年)
- 422 ボブ・ウッドワード著、伏見威蕃訳『オバマの戦争』(日本経済新聞出版社、2011年)
- 423 安井 明彦『アメリカ 選択肢なき選択』(日本経済新聞社 2011年)

- 424 久保文明・中山俊宏・渡辺将人『オバマ・アメリカ・世界』(NTT出版 2012年)
- 425 J. クロップンバーグ著 古矢・中野訳『オバマを読む——アメリカ政治思想の文脈』(岩波書店 2012年)
- 426 里内克巳 編著『バラク・オバマの言葉と文学——自伝が語る人種とアメリカ』(彩流社 2011年)
- 427 ポブ・ウッドワード著、伏見威蕃訳『政治の代償』(日本経済新聞出版社、2013)
- 428 吉野孝・前嶋和弘『オバマ後のアメリカ政治—2012年大統領選挙と分断された政治の行方』(東信堂、2014年)
- 429 ヒラリー・クリントン『困難な選択上・下』(日本経済新聞出版社、2015)

<リベラル・保守・イデオロギー>

- 430 佐々木毅 『保守化と政治的意味空間：日本とアメリカを考える』(岩波書店 1986年)
- 431 佐々木毅 『現代アメリカの保守主義』(岩波同時代ライブラリー 1993年)
- 432 佐々木毅 『現代アメリカの自画像』(日本放送協会 1995年)
- 433 佐々木毅 『アメリカの保守とリベラル』(講談社学術文庫 1993年)
- 434 『思想』1992年11月号(アメリカ政治特集)
- 435 砂田一郎『現代アメリカのリベラリズム—ADAとその政策的立場の変容—』(有斐閣、2006年)
- 436 リー・エドワーズ 『現代アメリカ保守主義運動小史』(明成社、2008)
- 437 G・ノーキスト 『「保守革命」がアメリカを変える』(中央公論社 1996年)
- 438 久保文明編『G. W. ブッシュ政権とアメリカの保守勢力—共和党の分析』(日本国際問題研究所、2003年)
- 439 久保文明編 『米国民党—2008年政権奪回への課題』(日本国際問題研究所 2005年)
- 440 吉原欽一編著 『現代アメリカの政治を見る眼—保守とグラスルーツ・ポリティクス』(日本評論社 2005年)
- 441 渡辺将人著 『分裂するアメリカ』(幻冬舎新書 2012年)
- 442 久保文明・東京財団著 『ティーパーティー運動の研究—アメリカ保守主義の変容』(NTT出版 2012年)
- 443 中山俊宏『アメリカン・イデオロギー：保守主義運動と政治的分断』(勁草書房、2013年)
- 444 中山俊宏『介入するアメリカ：理念国家の世界観』(勁草書房、2013年)
- 445 バーニー・サンダース『バーニー・サンダース自伝』(大月書店、2016年)

<思想>

- 446 会田弘継『追跡・アメリカの思想家たち』(新潮選書、2008)
- 447 R・A・ダール『アメリカ憲法は民主的か』(岩波書店、2003年)
- 448 本田量久『「アメリカ民主主義」を問う—人種問題と討議民主主義—』(唯学書房、2005年)
- 449 松本 礼二、宇野 重規、三浦 信孝『トクヴィルと民主主義の現在』(東京大学出版会、2009)
- 450 会田弘継『トランプ現象とアメリカ保守思想』(左右社、2016)
- 451 会田弘継『増補改訂版 - 追跡・アメリカの思想家たち (中公文庫)』(中央公論新社、2016)

<大統領>

- 452 太田俊太郎 『アメリカ合衆国大統領選挙の研究』(慶應義塾大学出版会 1996年)
- 453 デイヴィッド・ルイス『大統領任命の政治学』(ミネルヴァ書房、2009)
- 454 石澤 靖治 『大統領とメディア』(文芸春秋 2001年)
- 455 ロン・サスキンド 『忠誠の代償—ホワイトハウスの嘘と裏切り』(日本経済新聞社 2004年)
- 456 R・V・ピラード、R・D・リンダー 『アメリカの市民宗教と大統領』(麗澤大学出版会 2003年)
- 457 宮脇岑生 『現代アメリカの外交と政軍関係—大統領と連邦議会の戦争権限の理論と現実』(流通経済大学出版会 2004年)
- 458 砂田一郎 『アメリカ大統領の権力—変質するリーダーシップ』(中公新書 2005年)
- 459 ジョセフ・ナイ、藤井 清美訳『大統領のリーダーシップ』(東洋経済新報社、2014)
- 460 梅川健『大統領が変えるアメリカの三権分立制：署名時声明をめぐる議会との攻防』(東京大学出版会、2015)
- 461 待鳥聡史『アメリカ大統領制の現在—権限の弱さをどう乗り越えるか』(NHK出版、2016)
- 462 花木亨『大統領の演説と現代アメリカ社会』(大学教育出版、2015年)

<議会・政党・利益集団>

- 463 久保文明 『現代アメリカ政治と公共利益』(東大出版会 1997年)
- 464 岩崎正洋編『政党システムの理論と実際』(おうふう、2011年)
- 465 廣瀬淳子 『アメリカ連邦議会—世界最強議会の政策形成と政策実現』(公人社 2004年)
- 466 藤本一美 『アメリカ政治と政党再編成』(勁草書房 1988年)
- 467 内田満 『変貌するアメリカ圧力政治』(三嶺書房 1995年)
- 468 信田智人 『アメリカ議会をロビーする』(ジャパンタイムズ 1989年)
- 469 阿部齊他 『世界の議会2』(ぎょうせい 1984年)

- 470 I・M・デスラー 『貿易摩擦とアメリカ議会』(日本経済新聞社 1987年)
471 軽部謙介 『ドキュメント アメリカの金権政治』(岩波新書、2009年)
472 西川賢 『分極化するアメリカとその起源: 共和党中道路線の盛衰』(千倉書房、2015)

<選挙>

- 473 渡辺 将人 『アメリカ政治の現場から』(文芸春秋 2001年)
474 渡辺将人 『現代アメリカ選挙の集票過程—アウトリーチ戦略と政治意識の変容—』(日本評論社、2008年)
475 渡辺将人 『見えないアメリカ』(講談社現代新書、2008)
476 近藤健 『アメリカの内なる文化戦争—なぜブッシュは再選されたか』(日本評論社 2005年)
477 渡辺 将人 『現代アメリカ選挙の変貌: アウトリーチ・政党・デモクラシー』(名古屋大学出版会、2016)

<司法>

- 478 ルーズヴェルト・カーミット著 大沢秀介訳 『司法積極主義の神話—アメリカ最高裁判決の新たな理解』(慶大出版会 2011年)
479 大沢秀介 『アメリカの司法と政治』(成文堂、2016)
480 阿川尚之 『憲法改正とは何か: アメリカ改憲史から考える』(新潮選書、2016)

<行政>

- 481 ドナルド・ケトル 『なぜ政府は動けないのか: アメリカの失敗と次世代型政府の構想』(勁草書房、2011)

<シンクタンク>

- 482 横江公美 『第五の権力—アメリカのシンクタンク』(文春新書 2004年)
483 J・A・スミス 『アメリカのシンクタンク—大統領と政策エリートの世界』(ダイヤモンド社 1994年)
484 アレックス・アベラ 『ランド 世界を支配した研究所』(文春文庫、2011年)
485 中野秀一郎 『アメリカ保守主義の復権—フーバー研究所をめぐる知識人』(有斐閣選書、1982年)

<福祉・医療>

- 486 渋谷・渡瀬・樋口編 『アメリカの福祉国家システム: 市場主導型レジームの理念と構造』(東大出版会 2003年)
487 天野拓 『現代アメリカの医療政策と専門家集団』(慶應義塾大学出版会、2006)
488 天野拓 『現代アメリカの医療改革と政党政治』(ミネルヴァ書房、2009)
489 杉田米行編 『日米の医療—制度と倫理—』(大阪大学出版会、2008年)
490 山岸敬和 『アメリカ医療制度の政治史—20世紀の経験とオバマケア—(南山大学学術叢書)』(名古屋大学出版会、2014年)
491 佐藤千登勢 『アメリカの福祉改革とジェンダー: 「福祉から就労へ」は成功したのか?』(彩流社、2014)
492 早川佐知子 『アメリカの看護師と派遣労働—その歴史と特殊性』(溪水社、2015年)

<環境>

- 493 アル・ゴア著、竹林卓翻訳 『理性の奪還 もう一つの「不都合な真実」』(ランダムハウス講談社、2008年)
494 及川敬貴編 『アメリカ環境政策の形成過程—大統領環境諮問委員会の機能』(北海道大学図書刊行会2003年)

<財政>

- 495 待鳥聡史 『財政再建と民主主義—アメリカ連邦議会の予算編成改革分析』(有斐閣 2003年)
496 渋谷博史編 『アメリカの連邦財政』(東京大学出版会、2006年)
497 河音琢郎 『アメリカの財政再建と予算過程—アメリカの財政と福祉国家』(日本経済評論社 2006年)
498 渋谷博史 『アメリカの分権と民間活用(アメリカの財政と分権)』(日本経済評論社 2012年)

<メディア>

- 499 清原聖子 『現代アメリカのテレコミュニケーション政策過程—ユニバーサル・サービス基金の改革—』(慶大出版会 2008年)
500 清原聖子、前嶋和弘 『インターネットが変える選挙—米韓比較と日本の展望』(慶大出版会、2011年)
501 前嶋和弘 『アメリカ政治とメディア—「政治のインフラ」から「政治の主役」に変貌するメディア』(北樹出版、2010年)
502 大場吾郎 『アメリカ巨大メディアの戦略 グローバル競争時代のコンテンツ・ビジネス』(ミネルヴァ書房、2009年)

<都市政治>

- 503 菅原和行 『アメリカ都市政治と官僚制—公務員制度改革の政治過程』(慶大出版会、2010年)
504 西山隆行 『アメリカ型福祉国家と都市政治』(東京大学出版会 2008年)
505 小滝敏之 『アメリカの地方自治』(第一法規 2004年)

<市民社会論>

- 506 R・D・パットナム 『孤独なボウリング—米国コミュニティの崩壊と再生』(柏書房、2006年)
507 シーダ・スコッチポル 『失われた民主主義』(慶應義塾大学出版会、2007)

- 508 サラ・ヴァン・ゲルダ著 『99%の反乱-ウォール街占拠運動のとりえ方』(バジリコ 2012年)
 509 『オキュパイ! ガゼット』編集部『私たちは“99%”だ—ドキュメント ウォール街を占拠せよ』(岩波書店 2012)
 510 ノーム・チョムスキー『アメリカを占拠せよ!』(ちくま新書 2012年)

<宗教>

- 511 上坂 昇『神の国アメリカの論理』(明石書店、2008)
 512 森本あんり『アメリカ・キリスト教史—理念によって建てられた国の軌跡』(新教出版社、2006)
 513 藤原聖子 『現代アメリカ宗教地図』(平凡社新書、2009)
 514 藤本龍児『アメリカの公共宗教 多元社会における精神性』(NTT出版、2009年)
 515 金井光太郎編『アメリカの愛国心とアイデンティティ 自由の国の記憶・ジェンダー・人種』(彩流社、2009年)
 516 石生 義人『アメリカ人と愛国心: 白人キリスト教徒の愛国心形成に関する社会学的研究』(彩流社、2011年)
 517 蓮見博昭 『宗教に揺れるアメリカ: 民主政治の背後にあるもの』(日本評論社 2002年)
 518 堀内一史 『分裂するアメリカ社会—その宗教と国民的統合をめぐる』(麗沢大学出版会 2005年)
 519 森本あんり『反知性主義: アメリカが生んだ「熱病」の正体』(新潮社、2015)
 520 飯山雅史『アメリカ福音派の変容と政治: 1960年代からの政党再編成』(名古屋大学出版会、2013)

<人種・エスニシティ>

- 521 松岡泰『アメリカ政治とマイノリティ』(ミネルヴァ書房、2006年)
 522 C・P・ヘンリー 『アメリカ黒人の文化と政治』(明石書店 1993年)
 523 J・ボスキン 『サンボ—アメリカの人種偏見と黒人差別』(明石書店 2004年)
 524 D・A・ホリンガー 『ポストエスニック・アメリカ—多文化主義を超えて』(明石書店 2002年)
 525 有賀貞編 『エスニック状況の現在』(日本国際問題研究所 1995年)
 526 A・ハッカー 『アメリカの二つの国民—断絶する黒人と白人』(明石書店 1994年)
 527 J・ジェニングズ 『ブラック・エンパワーメントの政治—アメリカ都市部における黒人行動主義の変容』(ミネルヴァ書房 1998年)
 528 S・W・ミンツ 『アフリカン・アメリカン文化の誕生—カリブ海域黒人の生きるための闘い』(岩波書店 2000年)
 529 賀川真理『カリフォルニア政治と「マイノリティ」—住民提案に見られる多民族社会の現状』(不磨書房 2005年)
 530 大泉光一、牛島万著 『アメリカのヒスパニック=ラティーノ社会を知るための55章』(明石書店 2006年)
 531 阿部珠理『アメリカ先住民—民族再生にむけて—』(角川書店 2005年)
 532 鎌田遵『ネイティブ・アメリカン—先住民社会の現在—』(岩波書店、2009年)
 533 A・M・シュレジンガー二世 『アメリカの分裂』(岩波書店 1992年)
 534 S・ハンチントン 『分断されるアメリカ—ナショナル・アイデンティティの危機』(集英社 2004年)
 535 村田勝幸『〈アメリカ人〉の境界とラティーノ・エスニシティ—「合法移民問題」の社会文化史—』(東大出版会 2007年)
 536 本間長世『アメリカ社会とコミュニティ』(日本国際問題研究所、1993年)
 537 川崎正樹『アメリカ市民権運動の歴史—連鎖する地域闘争と合衆国社会—』(名古屋大学出版会 2008年)
 538 辻内鏡人 『現代アメリカの政治文化』(ミネルヴァ書房 2001年)
 539 久保、松岡、西山、東京財団『現代アメリカプロジェクト編著『マイノリティが変えるアメリカ政治—多民族社会の現状と将来』(NTT出版、2012年)
 540 川島正樹著『アフターマティヴ・アクションの行方—過去と未来に向き合うアメリカ』(名古屋大学出版会、2014年)
 541 西山隆行『移民大国アメリカ』(ちくま新書、2016)

<文化・社会争点>

- 542 小熊英二 『市民と武装—アメリカ合衆国における戦争と銃規制』(慶應義塾大学出版会 2004年)
 543 寄本勝美 『自治の形成と市民—ピッツバーグ市政研究』(東大出版会、1993年)
 544 渡辺靖 『アフター・アメリカ—ポストニアン軌跡と〈文化の政治学〉』(慶應義塾大学出版会 2004年)
 545 リンダ・ドブソン著、遠藤公美恵翻訳『ホームスクーリングに学ぶ』(緑風出版、2008)
 546 渡辺靖『アメリカン・センター—アメリカの国際文化戦略』(岩波書店 2008年)
 547 渡辺靖『アメリカン・コミュニティ—国家と個人が交差する場所』(新潮社 2007年)
 548 R・E・ダンラップ、A・G・マーティン 『現代アメリカの環境主義』(ミネルヴァ書房 1993年)

<経済>

- 549 上坂昇 『アメリカの貧困と不平等』(明石書店 1993年)
 550 W・J・ウィルソン 『アメリカのアンダークラス—本当に不利な立場に置かれた人々』(明石書店 2000年)
 551 国際労働研究センター著 『社会運動ユニオニズム—アメリカの新しい労働運動』(緑風出版 2005年)

- 552 ジョン・C・ボーグル著、瑞穂のりこ翻訳『米国はどこで道を誤ったか—資本主義の魂を取り戻すための戦い』(東洋経済新報社、2008年)
- 553 ジョセフ・E・スティグリッツ、リンダ・ビルムズ著、楡井浩一翻訳『世界を不孝にするアメリカの世界経済—イラク戦費3兆ドルの衝撃』(徳間書店、2008年)
- 554 山縣宏之『ハイテク産業都市シアトルの軌跡 航空宇宙産業からソフトウェア産業へ』(ミネルヴァ書房、2010年)
- 555 J. スティグリッツ著『世界の99%を貧困にする経済』(徳間書店 2012年)
- 556 ロバート・ライシュ、雨宮寛、今井章子訳『格差と民主主義』(東洋経済新報社、2014)

<外交>

- 557 大津留・大芝 『アメリカのナショナリズムと市民像—グローバル時代の視点から』(ミネルヴァ書房 2003年)
- 558 S・タルボット 『米ソ核軍縮交渉』(サイマル出版 1990年)
- 559 S・タルボット、M・R・ベシュロス 『最高首脳交渉』上・下(同文書院インターナショナル 1993年)
- 560 B・ウッドワード 『司令官たち』(文藝春秋 1991年)
- 561 細谷千博編 『アメリカ外交』(日本国際問題研究所 1986年)
- 562 宮里政玄 『米国通商代表部(USTR)』(ジャパンタイムズ 1989年)
- 563 村田晃嗣 『米国初代国防長官フォレスト—冷戦の闘士はなぜ自殺したのか』(中公新書、1999)
- 564 W・I・コーエン 『アメリカがアジアになる日』(草思社 2002年)
- 565 J・S・ナイ 『アメリカへの警告—21世紀国際政治のパワーゲーム』(日経新聞社 2002年)
- 566 フォーリン・アフェアーズ・ジャパン 『ネオコンとアメリカ帝国の幻想』(朝日新聞社出版 2003年)
- 567 山内昌之 『戦争と外交:イラク・アメリカ・日本』(ダイヤモンド社 2003年)
- 568 五味・滝田編 『現代アメリカ外交の転換過程』(南窓社 2000年)
- 569 ジョージ・レンツォウスキー 『冷戦下・アメリカの対中東戦略:歴代の米大統領は中東危機にどう決断したか』(第三書館、2002)
- 570 D・ハルバースタム 『静かなる戦争:アメリカの栄光と挫折』上・下(PHP研究所 2003年)
- 571 A・ネグリ、M・ハート 『帝国』(以文社 2003年)
- 572 E・トッド 『帝国以後』(藤原書店 2003年)
- 573 フォーリン・アフェアーズ・ジャパン編・監訳『アメリカと北朝鮮:外交的解決か武力行使か』(朝日新聞社2003年)
- 574 フォーリン・アフェアーズ・ジャパン編・監訳『アメリカはなぜイラク攻撃をそんなに急ぐのか』(朝日新聞社2002年)
- 575 松岡完 『ベトナム症候群:超大国を苛む「勝利」への強迫観念』(中公新書 2003年)
- 576 フォーリン・アフェアーズ・ジャパン『フォーリン・アフェアーズ傑作選—アメリカとアジアの出会い1922-1999』(朝日新聞社 2001年)
- 577 押村高編 『帝国アメリカのイメージ—国際社会との広がるギャップ』(早稲田大学出版部 2004年)
- 578 久保文明・赤木完爾編 『アメリカと東アジア—現代東アジアと日本』(慶應義塾大学出版会 2004年)
- 579 大津留(北川)・大芝編『アメリカが語る民主主義』(ミネルヴァ書房 2000年)
- 580 J・マン 『米中奔流』(共同通信社 1999年)
- 581 B・カミングス 『戦争とテレビ』(みすず書房 2004年)
- 582 B・カミングス 『北朝鮮とアメリカ—確執の半世紀』(明石書店 2004年)
- 583 T・バーネット 『戦争はなぜ必要か』(講談社インターナショナル 2004年)
- 584 W・G・ハイランド 『冷戦後のアメリカ外交—クリントン外交はなぜ破綻したのか』(明石書店 2005年)
- 585 A・シュレジンガー 『アメリカ大統領と戦争』(岩波書店 2005年)
- 586 M・マン 『論理なき帝国』(NTT出版 2004年)
- 587 J・S・ナイ 『ソフト・パワー—21世紀の国際政治を制する見えざる力』(日本経済新聞社 2004年)
- 588 RA・クラーク 『爆弾証言—全ての敵に向かって』(徳間書店 2004年)
- 589 五十嵐武士編 『太平洋世界の国際関係』(彩流社 2005年)
- 590 山本吉宣編 『アジア太平洋の安全保障とアメリカ』(彩流社 2005年)
- 591 五味俊樹・滝田賢治編 『9・11以後のアメリカと世界』(南窓社 2004年)
- 592 村田晃嗣 『アメリカ外交—苦悩と希望』(講談社現代新書 2005年)
- 593 最上敏樹 『国連とアメリカ』(岩波新書 2005年)
- 594 春原剛 『米朝対立—核危機の十年』(日本経済新聞社 2004年)
- 595 岡本道郎 『ブッシュVSフセイン イラク攻撃への道』(中公新書ラクレ 2003年)
- 596 フォーリン・アフェアーズ・ジャパン 『次の超大国・中国の憂鬱な現実』(朝日新聞社 2003年)
- 597 ズビグニュー・ブレジンスキー 『孤独な帝国アメリカ 世界の支配者か、リーダーか』(朝日新聞社 2005年)
- 598 田所昌幸 『「アメリカ」を超えたドル—金融グローバル化と通貨外交』(中公叢書 2001年)
- 599 P・W・シンガー 『戦争請負会社』(日本放送出版協会 2004年)

- 600 H・R・ナウ 『アメリカの対外関与—アイデンティティとパワー』(有斐閣 2005年)
- 601 渡辺啓貴 『ポスト帝国—二つの普遍主義の衝突』(駿河台出版社 2006年)
- 602 J・R・リリー 『チャイナ・ハンズ—元駐中大使の回想1916—1991』(草思社 2006年)
- 603 J・J・タシク 『本当に「中国は一つ」なのか—アメリカの中国・台湾政策の転換』(草思社 2005年)
- 604 横田洋三、大芝亮、久保文明編 『グローバル・ガバナンス—「新たな脅威」と国連・アメリカ』(日本経済評論社 2006年)
- 605 佐藤誠三郎編 『新戦略の模索—冷戦後のアメリカ—』(日本国際問題研究所、1994年)
- 606 五十嵐武士編 『アメリカ外交と21世紀の世界—冷戦史の背景と地域的 다양性をふまえて—』(昭和堂、2006年)
- 607 J・L・ギャディス 『アメリカ外交の大戦略—先制・単独行動・覇権—』(慶應義塾大学出版会、2006年)
- 608 高木誠一郎編 『米中関係』(日本国際問題研究所、2007年)
- 609 山本吉宣 『「帝国」の国際政治学—冷戦後の国際システムとアメリカ—』(東信堂、2006年)
- 610 山本吉宣・武田興欣編 『アメリカ政治外交のアナトミー』(国際書院、2006年)
- 611 黒崎輝 『核兵器と日米関係』(有志舎)
- 612 ヴィクター・D・チャ 『米日韓 反目を超えた提携』(有斐閣)
- 613 ジョン・ミアシャイマー 『大国政治の悲劇—米中は必ず衝突する』(五月書房、2007年)
- 614 ジョン・ミアシャイマー 『イスラエル・ロビーとアメリカの外交政策』I,II(講談社、2007年)
- 615 J.L.ギャディス 『冷戦—その歴史と問題点』(彩流社 2007年)
- 616 スティーヴン・M・ウォルト 『米国世界戦略の核心—世界は「アメリカン・パワー」を制御できるか?—』(五月書房 2008年)
- 617 倉科一希 『アイゼンハワー政権と西ドイツ』(ミネルヴァ書房、2008)
- 618 ケント・カルダー 『米軍再編の政治学』(日本経済新聞出版社、2008)
- 619 山本・武田編 『アメリカ外交のアナトミー』(国際書院 2007年)
- 620 菅英輝 『アメリカの世界戦略—戦争はどう利用されるのか—』(中央公論新社 2008年)
- 621 久保文明編 『アメリカ外交の諸潮流—リベラルから保守まで』(日本国際問題研究所、2007年)
- 622 ジョン・ラギー 『平和を勝ち取る』(岩波書店、2009)
- 623 ファリード・ザカリア 『アメリカ後の世界』(徳間書店、2008)
- 624 ジョセフ・S・ナイ 『リーダー・パワー』(日本経済新聞出版社、2008年)
- 625 五十嵐 武士 『グローバル化とアメリカの覇権』(岩波書店、2010年)
- 626 久保 文明編著 『オバマ政権のアジア戦略』(ウェッジ選書、2009)
- 627 村田 晃嗣 『現代アメリカ外交の変容 —レーガン、ブッシュからオバマへ』(有斐閣、2009年)
- 628 ヘンリー・A・キッシンジャー著、伊藤幸雄訳 『回復された世界平和』(原書房、2009年)
- 629 ポール・スタロピン著、松本薫訳 『アメリカ帝国の衰亡』(新潮社、2009年)
- 630 R.ケーガン著 『アメリカが作り上げた“素晴らしい”今の世界』(ビジネス社 2012年)
- 631 G. ローズ著 『終戦論: なぜアメリカは戦後処理に失敗し続けるのか』(原書房 2012年)
- 632 G.ジョン・アイケンベリー著 『リベラルな秩序か帝国か アメリカと世界政治の行方』(勁草書房 2012年)
- 633 ヘンリー・A. キッシンジャー著 『キッシンジャー回想録 中国』(岩波書店 2012年)
- 634 チャルマーズ・ジョンソン著 『帝国解体—アメリカ最後の選択』(岩波書店 2012年)
- 635 久保文明、高畑昭男、東京財団「現代アメリカ」プロジェクト編著 『アジア回帰するアメリカ—外交安全保障政策の検証』(NTT出版、2013年)
- 636 渡辺靖 『文化と外交 パブリック・ディプロマシーの時代』(中公新書、2011年)
- 637 布施 哲 『米軍と人民解放軍 米国防総省の対中戦略』(講談社、2014年)
- 638 ジェフリー・A・ベーター、 『オバマと中国: 米国政府の内部からみたアジア政策』(東京大学出版会、2013年)
- 639 飯田敬輔、 『経済覇権のゆくえ 米中伯仲時代と日本の針路』(中央公論新社、2014年)
- 640 水野剛也 『「自由の国」の報道統制: 大戦下の日系ジャーナリズム』(吉川弘文館、2014)
- 641 三牧聖子 『戦争違法化運動の時代: 「危機の20年」のアメリカ国際関係思想』(名古屋大学出版会、2014)
- 642 ヒュー・ホワイト著、徳川家広訳 『アメリカが中国を選ぶ日—覇権国なきアジアの命運』(勁草書房、2014年)
- 643 ブレッド・スティーブズ著、藤原朝子訳 『撤退するアメリカと「無秩序」の世界—そして世界の警察はいなくなった』(ダイヤモンド社、2015年)
- 644 北岡伸一・久保文明編 『希望の日米同盟: アジア太平洋の海洋安全保障』(中央公論新社、2016)
- 645 ジョセフ・S・ナイ 『アメリカの世紀は終わらない』(日本経済新聞出版社、2015)
- 646 イアン・ブレマー 『スーパーパワー : Gゼロ時代のアメリカの選択』(日本経済新聞出版社、2015)
- 647 立山良司 『ユダヤとアメリカ—揺れ動くイスラエル・ロビー』(中公新書)』(中央公論新社、2016)
- 648 土屋大洋 『サイバー・テロ 日米vs.中国』(文春新書、2012年)

- 649 土屋大洋『サイバーセキュリティと国際政治』(千倉書房、2015年)
- 650 ジェームズ・スタインバーグ、マイケル・E・オハンロン『米中衝突を避けるために—戦略的再保証と決意』(日本経済新聞社、2015年)
- 651 アーロン・L・フリードバーグ『支配への競争—米中对立の構図とアジアの将来』(日本評論社、2013年)
- 652 ケント・E・カルダー『ワシントンの中のアジア—グローバル政治都市での攻防』(中央公論新社、2014年)
- 653 春原剛『ヒラリー・クリントン —その政策・信条・人脈—』(新潮社、2016年)
- 以上